



森のなかま

2013年 9月号
NO. 65 (継続210号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102

発行人 久保 重明

『やどりき水源林のつどい』が開催！！

8月17日(土)



かなりんちゃん

しずくちゃん



< 副理事長 森本 正信 >

【恒例の「やどりき水源林のつどい」が、平成25年度も盛大に開催されました】

今年は好天に恵まれ、参加者数も約350名となり、イベントの限界に挑戦するくらいの規模で、とても賑いのあるつどい(集い)となりました。

午前中は、水源林内のトレッキング、水生生物観察と森林癒し(いやし)体験が主で、午後からは、式典、森のコンサートなどのあと、各ブースでの森林交流会となりました。ここで初めて、「かなりんちゃん」と「しずくちゃん」の「ゆるキャラ」のコラボも実現、子ども達には、大好評でした。

運営側としては、用意周到な準備と事前PRなどが効いたようです。また、メディアの神奈川新聞にも、紙面で大きく採りあげていただきました。今は、アンケート結果の分析が、待ち遠しいくらいです。大勢のスタッフの皆さん、来年も、よろしくお願いします。

寄大橋より



主催 県民との協働による森林づくり実行委員会

公益財団法人かながわトラストみどり財団、神奈川県、
神奈川県森林組合連合会、神奈川県木材業協同組合連合会、
神奈川県山林種苗協同組合、神奈川県森林協会、
連合神奈川、湘南リビング新聞社、神奈川新聞社、
南足柄緑の少年団、箱根みどりの少年団、
NPO 法人かながわ森林インストラクターの会

共催 松田町

協賛 神奈川県内広域水道企業団

(写真・記録 ソース(源) 伊藤恭造氏 7期)



配布された
特製団扇
“かながわの
森・川・海”



かながわ森林インストラクターの会は
『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

受け付け ⇒ バス ⇒ 会場へ (9:00~9:30)



新松田駅近くの
バス乗り場で受付



車中で森林インストラクター
からコース説明等を受ける



バスを降りて、森林の冷気
を感じながら会場に向う



当日、緑募金に協賛して
頂いた少年

トレッキング等のコース (10:00~12:00)

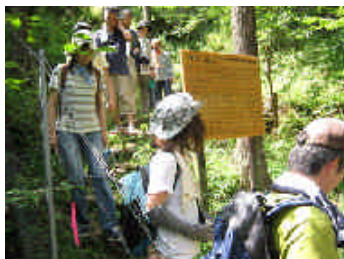
・林道コース ・周遊道Bコース ・成長の森コース(平成19年の一部) ・森林癒し ・水生生物観察

林道コース



やどりき沢(左側)の”せせらぎ”の音を聞きながら散策

成長の森コース



ケヤキ、コナラ等を植えて6年、小学1年生に大きく成長しました。

森林癒し



木漏れ日の林の中。ハンモックに入り、疲れた心身体を癒やします。

水生生物観察



採集した水生生物を顕微鏡で確認、何が見えたかな？

冷たい水に入り水生生物を探す。(気持ちいい!!)



音と冷気と⊖イオンに癒されます。(滝郷の滝前にて)

司会者
Mr.M & Ms.K



主催者代表御挨拶

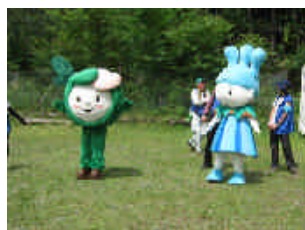


開催あいさつ 昼食 森のコンサート (12:00~13:00)

草笛名人(師井さんと松永さん) オハヤシ・キッズ/弥勒寺祭囃子保存会



ゆるキャラ/2大スターの共演
かなりんちゃんとしずくちゃん



昼食

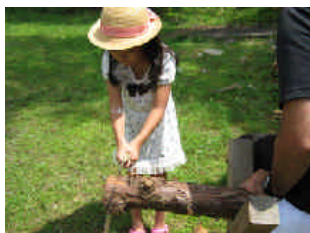


人気の鯛焼きと鹿シチュー

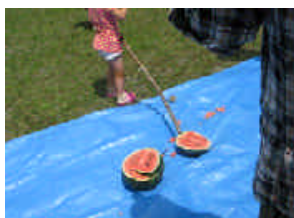


森林交流会等 (~14:30)

間伐・疑似体験(丸太切り)



スイカ割り、見事に割れました。この後、皆で美味しく頂きました。



切った材とドングリを使ってクラフト



森林インストラクターが製作した“グッズ”の販売



お父さんは竹のジョッキを作って今夜一杯



初めての出展 やどりきに生息の“動物・植物の写真展”



定着型ボランティア団体の活動紹介パネル





森林部会 技術研修『竹林整備と竹利用について』

小田原市小竹(神奈川県住宅供給公社所有地) 7月21日(日)9:30~15:00

講師：中元 秀幸 氏 10期 (兼所属:日本の竹ファンクラブ)

< 森林部会 西出 健一 12期 >

「目的」：竹林整備については養成講座で行われていない事もあって、知識の共有がなされておらず、指導する内容にも差異が見受けられます。指導者として、竹林整備に必要な知識や技術を取得して、指導内容の統一がされるよう、今回、講義と実践から成る技術研修会を開催致しました。

「下見」：6月26日、今回研修場所を御提供頂いた神奈川県住宅供給公社(以下、「公社」、)仲介役のかながわトラスみどり財団、私達の3者が集まり、公社県西地区開発事務所(二宮)で作業の進め方等の打合せを行った後、現場を視察し、場所、竹林の現状、駐車スペース等を確認しました。

「場所」：小田原厚木道路の二宮ICに程近い、小田原市小竹の竹林で、南北約100m、東西約25mの長方形の傾斜地です。これまで、西側道路の通行や東側地主との境界を維持するため、必要最低限の整備が行われていたようですが、内部は殆んど放置状態で、特に東側にある畑からは内部が見えない程に竹が密集していました。

「開会式、講義と実技デモ」：8:30、秦野駅南口に集合し、7台の車に分乗して現地に向かいました。現地では、他車の通行を妨げない様に、分散して道路の路肩に駐車しました。

9:30、研修会を開会し、まず、佐藤部会長が挨拶して今回の研修会の目的等を述べ、続いて、公社県西地区開発事務所石井所長より御挨拶を頂いた後、早速、10期中元講師による講義を開始しました。講師が用意したテキストに基づき、約1時間半、竹の基礎知識(種類、相違、生態等)、竹林の管理方法、整備方法等について説明があり、その後、講師自らによる伐採の実技デモがありました。



講習風景

「実践」：11:30、実践に移り、現場を南北方向に二分して、2班に分かれて作業を開始しました。作業は2人1組で行い、伐採する竹の選定、倒す方向、竹と枝の集積場所の決定等を相談しながら進めることにしました。今回は、研修でもあり、出来るだけ基本に忠実に伐採し、集積する事にしました。即ち、地際の受け口、その上部数cmに追い口を入れて倒し、3mに玉切り、鋸による枝払いをして、竹と枝の集積場所に集めました。約30分の昼食をはさんで、14時30分まで作業を行いました。



作業開始
(真っ暗な竹林)



作業途中
(だいぶ明るくなりました)



作業終了
(向こうが見える様になりました)

「意見交換、講評、閉会」：14:45から、まず各班から感想を述べてもらい、続いて講師の講評、部会長のまとの挨拶があり、最後に公社石井所長から、「西側道路から東側の空が見えるまでになりました。有難うございました。」と言うお礼の言葉を頂いて、15:00、解散しました。

「総評」：作業が始まる頃から日が差し始めて気温が上がる中、汗を拭きながら作業に励んで頂いた結果、見事に变身した竹林を見て、皆さん感激されたと思います。「知識を得て、実践し、結果を残す」という理想的な展開ができたのではと考えています。参加者の皆さん、お疲れ様でした。

「参加者」 24名 中元⑩(講師)、菊池①、国分③、佐藤⑤、滝澤⑤、釘宮⑥、伊藤⑦、小野⑦、塩谷⑦、有坂⑧、久保⑧、水津⑨、高橋⑨、青木⑩、松山⑩、柴⑩、中村⑪、松永⑪、松本⑪、吉田⑪、石川⑫、門澤⑫、山崎⑫、西出⑫

私の認識

野鳥その113

高橋 恒通

今月の海ガモは冬鳥ですが北海道では少数が越冬して繁殖の記録のあるホシハジロ(漢和名:星羽白、英名:European Pochard、体長L=45 cm)をご案内致しましょう。

成鳥♂の体色は、嘴が先端と基部が黒色で中間は灰白色、虹彩は赤色、頭部から前後頸が赤茶色、胸前から頸下側面と尾羽が黒褐色、そして背面側面が灰白色です。その背面の灰白色は双眼鏡などで詳細に観ると、白地に黒褐色の細かい斑が濃く波状になっています。成鳥♀のそれは頭頂から胸前、後頸にかけて焦茶色、背面が淡褐灰色、灰色の側面で全く目立たない色合ですが、いかにも♀らしい優しさを感じさせる点は、焦茶色の虹彩と目を囲む淡い白色アイリングの存在です。



それからホシハジロは飛翔時に翼の上面に白色の“翼帯”が現われるのも同定のポイントのひとつだと私は認識しております。

翼帯とは、翼の上面や下面にあるもので、翼の基部と先端部を結ぶ線と同じ方向に帯状に現われる模様のことを言います。

棲息環境は河口、湖沼、内湾、公園の大きな池などで、海ガモの割には海上、沖合に居る事が少ないみたいな認識をして認識をしていますが、これは私が海上に出て観察をした経験が無い故かも知れません。実際に海上に出て詳しくサーチすると多数のホシハジロが見つかるかも知れません。

そしてホシハジロの行動様式は、日中は港や湖沼などで群れて居る事が多いと言われております。

私の経験では、これまで上野不忍池、多摩川下流域、山中湖、三溪園などで観察した折りには♂♀

合せて10羽前後の小さな群だった記憶があります。

私が入会している「富士山自然誌研究会」が平成24年2月に山中湖で行った探鳥会で貸ボート屋の桟橋上から観光客がコブハクチョウに餌を与えている時に、餌のおこぼれにマガモ、コガモ、キンクロハジロが群がっている様子を少し離れた処で、ホシハジロが♂♀9羽群れて眺めている場面を観察しました。その時に何故ホシハジロもおこぼれ争奪戦に参加しないのか?と不思議に感じました。私の勝手な解釈ではホシハジロは人間に対する警戒心が意外に強い為だろうと、現時点で結論づけております。

所で、日本野鳥の会の県下一斉ガンカモ調査2010年度のデータによりますと、横浜港最奥部138羽、浮島処理場127羽、相模湖96羽、中区・小港76羽、富岡船どまり49羽、芦ノ湖40羽等々カウントされていますが、ホシハジロの越冬地での居場所には若しかすると独得な偏りが在るのかも知れません。

ホシハジロの採食行動は他のカモ同様に夕方になると餌場へ行き、水生植物の茎や根、水草やイネ科植物の種子、そして潜水して甲殻類を食すると図鑑にはあります。

ホシハジロの世界地図上での棲息分布は、同年棲息域がアイルランド、英国、イベリア半島、繁殖地域が北緯50度を中心にしたユーラシア大陸の細長いエリアで、東端がバイカル湖辺りまでです。そして越冬地は極東の日本、中国沿岸域からベトナム、タイ、インド中央部からトルコへと細長い地域、そしてアフリカの一部などユニークな国々です。

〈参考資料〉

◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)/上田秀雄、山と溪谷社

◎野鳥、山溪フィールドブックス4、写真/叶内拓哉 解説/浜口哲一、山と溪谷社

◎フィールドガイド日本の野鳥、野鳥ブックス②、高野伸二著、(財)日本野鳥の会

◎ (イラスト) 広報部 大塚 晴子

活動短信



今回の掲載

6/29～7/27 は一部
投稿頂いた中には、紙面
の都合上、次号以降の掲
載になるものもあります。
予めご了承下さい。

◆ 県民参加の森林づくり（竹林整備）

- 日 6月29日(土) 8:40～14:30、晴れ
場 中井町比奈窪(中井中央公園)
参 一般県民 95名 研修生3名
財 鳥海様、古舘様、石川様 看 青木様
スタッフ 中井町 井上様
イ L宮下⑫、石原③、落合③、米山④、佐藤⑤、
宮本⑥、伊藤⑦、鈴木⑦、清水⑧、野牛⑧、後藤⑩、
中元⑩、上宮田⑪、福島⑪、波多野⑪、渡辺(敏)⑫
(研修) 柳③、碓井⑫、西出⑫

日々急変するもの・・・近頃の株価と“週間”天気予報。この影響か、朝から好天にも拘らず、参加者は予定の3/4に。場所は年1回だけの整備で荒れた真竹林。エリアは背丈にも繁茂した草刈りが最初の作業で、まずは大鎌隊が開拓した跡を若竹刈り隊が進むという何ともやりがいのあるエリアであった。

参加者の多くが竹林整備初めてで、作業手順、作業上の注意を個別に指導しながらであったが、皆さん結構楽しみながらの作業だったようである。

竹の子確保をしながらも整備は捗り、あっという間の2時間で、“もっとやりたい”との声や、整備前後の現場の変化に“すごい”との感嘆の声も聞けたりで、参加者は満足を得られた様子。

抱えきれない竹の子や竹細工用の竹をお土産に作業終了。広々とした野球場を目の前にして気持ちのよいお弁当タイムと、リーダーの“ためになる竹のお話”で本日のイベントは締め括られました。

(記 渡辺敏幸 12期)

◆ 横浜市立能見台南小学校

自然観察とホタル観察

- 日 6月30日(日) 13:00～21:00、晴
場 横浜自然観察の森
参 小学4年生153名、教師10名
財 古舘様
イ L杉戸⑥、井出①、高橋③、渡辺③、齋藤⑥

伊藤⑦、野田⑧、永松⑫

六国峠のハイキングコースを朝から歩いて観察の森にやって来た生徒達。もうすでに歩き疲れて到着。13時より観察の森レンジャーの方より園内動植物の説明とホタル鑑賞の注意等を受ける。その後20名ほどのグループに分かれて歩き始める。暗い森、明るい森の違いに気づかせたり木肌に触れながらノギクの広場へと。そこは200万年前は海だったとのこと。海辺の植物を見ることが出来るのだが、貝殻探しやバッタを捕まえるのに夢中。皆でネムノキの甘い香りを嗅ぎ、マツの雄花・雌花・マツボックリを観察。いずれも低木なので観察向き。その後ヘイケボタルの湿地でカワニナやヤマアカガエルをみつけ大喜び。コフキトンボも飛びかかっていました。後半、陸生巻き貝のキセルガイを発見、カタツムリのようにツノを出してきたので陸にいることに納得。15時過ぎに上郷自然の家に到着。夕食後、キャンドルファイヤーを楽しみ20時に再びヘイケボタルの湿地へと。暗い木立の中で光るホタル、子供が手を差し出したらそっとホタルがとまって感激、「ホタルは人間が大好き」と話しながら森の家へと向かいました。

(記 永松裕子 12期)

◆ 横浜市立豊岡小学校

上郷宿泊体験学習～神奈川県森の森を知ろう～

- 日 7月7日(日) 11:00～14:00、晴れ
場 鎌倉ハイキングコース、横浜自然観察の森
参 小学4年生97名、教師7名
イ L村井⑨、宮本④、武者⑦、小林(保)⑨、
小沢⑨、小林(富)⑩、杉崎⑩、大塚⑪、西出⑫

豊岡小4年生は初登山の子達が、鎌倉～上郷まで植物観察しながら山道を散策しました。

11時よりオリエンテーションを開始し、天園ハイキングコースを巡り、昼食後は大平台～上郷までクヌギ林を散策しました。梅雨明けの猛暑日の中、体調を崩すことなく元気に楽しく過ごせました。

(記 大塚晴子 11期)

◆ 県民参加の森づくり（下刈り）

- 日 7月13日(土) 9:20～13:40、晴れ
場 南足柄市塚原

参 一般県民 53名(男性49名、女性14名)

財 豊丸様、鳥海様、石川様 看 青木様

イ L有坂⑧、高橋③、坂齋⑦、山崎⑦、鈴木⑨、波多野⑨、村井⑨、柴⑪、一重⑪、大橋⑪、大塚⑪

植樹したヒノキ林の下刈り、雑草が人の背丈ほどに伸びてきており、カヤやイバラの蔓もヒノキにからみ、取るのに大変でしたが大部分は撤去できたと思います。気温は高めでしたが、日差しが弱く、水分補給と休息を頻繁にとり体力の消耗に気をつけましたが、男性一人の気分が悪くなり下山した以外は熱中症になった方もなく作業は終了。ハチ、アブに刺された方が2名おりましたが、看護師さんの手当てで無事でした。また、作業現場も急斜面も少なく参加者も高校生を含めた大人だけでしたので、事故も無く少し早めに作業を終え下山し、開成駅に戻り解散しました。

10日の下見日は天気がよく、気温が高くて実施日の熱中症が心配されましたが、当日は薄い雲が日差しを遮ってくれて助かりました。塚原の現場付近ではあまり日陰はありませんので、真夏の塚原の下刈りは大変だと思います。

現場に向かう途中に大きなガケ崩れで樹木が多量の土砂とともに流れ落ちて道路を塞ぎ土砂を取り除くのに1週間ほど通行止めだったようです。参加者の皆さんも皆驚いていました。山の荒れは普段の手入れの必要性を感じたと思います。

(記 有坂宗二 8期)

◆ 横浜市立すみれが丘小学校

水生生物の観察

日 7月18日(木) 9:00~11:00、晴れ

場 上総川(丸太の森内)

参 小学5年生72名、教師8名

イ L宮本④、井出①、竹島③、高崎④、愛木⑦、阿部⑧

心配された雨も朝方に止み、川に入るには格好の快晴の真夏日となった。9時過ぎに到着した生徒たちを迎え、インストラクターの紹介・リーダーによる森林の働きの説明後、6班に分れ酒匂川上流の上総川(丸太の森内)に入る。

川では、水生生物の捕獲の仕方、安全性の注意

などの後、各自が網を持ち、さっそく水につかり生物の捕獲。採ったカゲロウ・カワゲラ・サワガニ・ガガンボ・オタマジャクシ・プラナリア等の生物をバットに入れ、その後にシャーレに仕分け、顕微鏡で生物を観察し、同定作業を行い、最後に川にリリースした。

川での捕獲作業は20分ほどだったが、生徒達は皆いきいきと水につかり、目を輝かせていた。川の底の生きものの発見、全員が様々な生きものを獲ることができたこと、さらに獲った生き物を顕微鏡で見ることにより印象が拡大したことなど、川の上流に棲む生き物のイメージをつかむことができた新しい体験となったようだ。

当初は、現地は岩が多く、滑って頭を打ったりしないかと心配したが、全員怪我も無く、短時間ではあったが充実した時間を過ごせた。来年もまた実施したいと先生は言っておられました。

(記 阿部 純一 8期)

◆ 小田原市森林組合

自然観察と飯盒炊飯(はんごうすいはん)

日 7月25日(水)、曇り

場 小田原市いこいの森

参 17名(大人7名、子ども10名)

スタッフ 小田原市森林組合:佐藤様、村山様

イ L小沢⑨、齋藤⑥、酒井⑩

「おだわらし いこいの森」は落ちている枯葉・小石一つさえも持ち去り禁止の国立公園とは違い、カブトムシ類を捕まえたり、コナラの実生など、森の恵みをおみやげにどうぞ、という大らかさで来園者を迎える素晴らしい森。

アメリカ人に嫁ぎ、夏休みを13歳のクリス君と10歳のメイちゃんを連れ帰国中のお母さん、とおじいちゃんの4人が私の班。最初の観察場にしていたクヌギ・コナラの古の薪炭林で大ピンチ。日本の子どもにさえ、薪でご飯などの食事を作ることの理解が困難な時代、木を燃やしてご飯・・・？ お昼にやってみようで切り抜けた。

飯盒炊爨(はんごうすいはん)。子どもたちの火への興味は万国共通のようで、木っ端を火に焼べる(くべる)ことに喜喜とし過ぎ、お焦げが案じられたが、おいしく炊け、クリス君はカレーをおかわり、本日の

一番面白かった事、とアンケートに記入。

午後、最初のアクティビティはコースター作り。垂直に刃を下に引く、ウーン、オヤッ〜、大半が幼稚園生といえども刃が進まない。よく見ると、なんと竹挽き鋸、苦勞しながらも皆さん一枚をおみやげにして満足。そして笹舟流しを楽しみ、ヒヤリハットも無く、一日を終える。

多彩に用意されたプログラムと針葉樹と広葉樹の林相の違う森の観察。皆さん、「また来ますよ！」の声とともに帰宅の途についた。

(記 酒井 房次郎 10期)

◆ 神奈川県水道記念館

水源林保全体験(竹林除伐と木工)

日 7月26日(金) 8:50~15:40、曇り

場 県立21世紀の森

参 26人(大人13名、子供13名)

スタッフ 神奈川県水道記念館:館長山口様、他2名

イ L小野⑦、渡辺③、小沢⑨、西出⑫

8:50、本厚木駅から全員が専用バスに乗って21世紀の森に向かった。参加者は、平日の事もあり、母親と子供がほとんどである。現地に到着後、開会式があり、山口館長の挨拶、(株)足柄GS 杉崎所長やリーダーから作業に関する注意等の話があり、ストレッチの後、4班に分かれて、作業現場に向かった。現場は、1m程の通路の両側に細い真竹が密集する竹林で、まず、伐採、玉切り、枝払い、伐採竹の処理等を説明した後、通路脇の今年生から順次伐採を始めた。親が伐採に夢中になることが多く、安全に注意しながら、主に、子供の作業を手伝った。時々日が差し、かなり汗をかいたが、ヒヤリハットもなく、午前中の作業は無事に終了した。昼食をはさんで午後は、森林館の研修室で(株)足柄GSの指導の下、ヒノキの間伐材を使ったマイ箸を作り、箸袋に絵を描いた。箸は、カンナやペーパーで成形した後、熱コイルでイニシャルを書いて、食用油でコーティングして完成させ、箸袋には柿渋で絵を描いて、乾燥させた。我々4人も参加者の作業を手伝いながら、共に楽しませてもらった。閉会式の後、バスに乗り、15:40、本厚木に到着して解散となった。

(記 西出健一 12期)

◆ 日揮株式会社 パートナー林活動

水生生物の観察とクラフトワーク

日 7月27日(日)9:30~14:00、曇り時々晴れ

場 やどりき水源林

参 日揮(株)大人6名、子供5名 計11名

(3家族 + 佐藤恭平氏①)

イ L宮本④、阿部⑧

午前中は広場付近の寄沢で水生生物の採集・観察、午後は広場前ベンチ、集会棟横材料置き場でクラフトワークを行った。

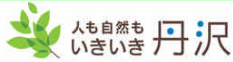
水生用具を採集現場に置き、先ず滝郷の滝に案内したが、昨夜の雨で水量が増していて、参加者は豪快な落水とその涼気に感激していた。

寄沢はやや増水していたが、水生生物の採集を約1時間行って、採集生物を観察ボックスにピックアップし広場のベンチで観察した。採集された生きものを説明しながら、子供達に予め渡した採集生物チェック表に記入してもらった。

底生昆虫の他にサワガニ、カジカ(魚)、カジカガエルのオタマジャクシも採集でき、子供達は大喜びだった。

クラフトワークは広場のベンチで、参加者の佐藤恭平氏(1期)が持参された材料、用具を用いて、ドングリクラフトの工作と親子による丸太切り、焼印、カラーペンを使ったペインティングを楽しんでもらった。子供たちのそれぞれ個性ある出来栄に、親子満足されていたようである。

(記 宮本 聡 4期)



丹沢の自然再生に取り組む
 丹沢大山自然再生委員会ホームページで
 ご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

略語の説明

日: 日付、 場: 場所、 参: 参加者、

県: (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財: ((公財)かながわトラストみどり財団)

スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

看: 看護師、 イ: インストラクター (○数字: 期)

やどりき水源林 ミニガイド

8月のトピックス

ウワズミサクラのサクランボ



(寄大橋入口 8月7日撮影)

9月の水源林

残暑もきついと思います。綺麗な川で遊んで、残暑をのりきりましょう。秋の気配もありトンボもいます。

「森の案内人」情報

案内人も張り切ってお待ちしています!!

●実施時間:毎週土曜・日曜・
午前10時・午後1時, 1~2 時間程
度

●集 合:水源林入口ゲート前

●内 容:森林インストラクターが自然
観察にご案内します。森林のしくみ
手入れなどについて説明致します。
参加自由、参加費無料

*10 人以上の団体は事前に下記ま
でご連絡ください。

●問合せ:(公財)かながわトラス
トみどり財団 TEL:045-412-2255
携帯:090-8580-5348
FAX:045-412-2300

●ホームページ:<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場
線松田駅下車、富士急湘南バス「寄
(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス
下車後(案内板あり)川沿いに徒歩
35 分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

『緑化運動・育樹運動コンクール の標語募集』

内容: 緑を増やす大切さと人と緑の関
わりを簡潔に創作した標語

対象: 県内在住・在勤・在学の方

応募方法: はがきに標語(1人1点)と

〒住名、職業を明記し、

9月10日(必着)までに

(公財)かながわトラスみどり財団=

〒220-0073 横浜市西区岡野 2-12-20

TEL045(412)2255 へ

問合せ: 前記が県自然環境保全課

TEL045(210)4306

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集して
います。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail: matsutam@jcom.home.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel: 090-6150-6173

Mail: s_akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutam@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kj.biglobe.ne.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail: 2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/17006/p23426.html>

かながわの水源環境の
保全・再生をめざして



編集後記

★数年ぶりに長い夏休みを頂きまして、
子供よりも弾けて遊んで、朝からカンパ
ーイ…当然夏バテしました。(赤崎)

★最近やっとな夜風が涼しくなっただけと
していますが、夏が終わるのは少し寂し
く感じる今日このごろです。(加藤)

★最近、少しずつ涼しくなったのを契機
に、秋植物を勉強中です。活動までに
いくつ覚えられるかな?(大塚)

★猛暑 人間も大変ですが、自然界の
動植物はもっと大変!
こんなの今年だけにして欲しいので
すが!(水口)

★残暑に負けず次の一步を夢見て、太
陽が出ない夜はないとか!庭には秋の
虫の音色が聞こえています。(小沢)

★小さな庭の木に雀が来ていたので見
たら虫を追いかけ食べていました。
虫はアオバハゴロモの成虫(綺麗な
薄緑色、幼虫時は白いロウ状の物質で
被われている)でした。(松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方
は、郵便局備付けの郵便振替を利用
してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛
まで購読料年2000円をお振込み下さ
い。振替用紙には、必ず、住所、氏名
を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1
年間お届け致します。
(頒 価 200円 送料共)

編集人: 松本 保

事務局: 竹島 明

広報部: 小沢章男 水口俊則

鈴木 朗 鈴木松弘

大塚晴子 加藤暖子

赤崎さほり

支援 川森健司 谷川 克

一時休み 真貝 勝 徳岡達郎

募集 ■ 森林探訪「初秋の山北を歩く」河村城址と洒水の滝

森林インストラクターの案内で初秋の山北(河村城址と洒水の滝)を歩いてみま
せんか!! (お友達やお知り合いにもお声をかけてください。)

先着100名。9月28日(土)午前9時45分JR御殿場線「山北駅」に集合。

山北駅—河村城址—洒水の滝—山北駅—午後3時ごろ山北駅で解散。(約6km)

参加費500円。弁当持参。履き慣れた靴に長そで長ズボン。雨天決行。

往復はがきに「初秋の山北を歩く」と明記し、参加者全員の住所、氏名、年齢を記載し、

〒245-0016 横浜市泉区和泉町6206-1 グレーシアいずみ野105号

NPO法人かながわ森林インストラクターの会

松永 廣(電話050-8880-3465) 9月21日必着。

(今月はこまちの広告はお休みです)